

お待たせいたしました！

次回の自然科学研究機構シンポジウムの概要をお知らせします。

3月22日（日）は、ぜひ学術総合センター（一橋講堂）にお越し下さい。

お待ちしております。

-----  
INDEX  
-----

1. 「第 18 回自然科学研究機構シンポジウム」概要決定
2. 各研究機関のイベント情報
3. 最新の研究成果・ニュース
4. おわりに

- 
1. 「第 18 回自然科学研究機構シンポジウム」概要決定
- 

<シンポジウム概要>

◆タイトル：第 18 回自然科学研究機構シンポジウム

「生き物たちの驚きの能力に迫る」

<http://www.nins.jp/sympo18.php>

◆概要：

生き物の驚きの能力とそれに迫る研究者の姿を紹介すると共に、様々な立ち位置から生き物に関わる講演者を迎え、自然や生物と人との関わり合いを多様な視点から見つめなおす機会とする。

◆日時：平成 27 年 3 月 22 日（日） 10:00～17:00

◆会場：一橋講堂（講演用）及び中会議場 2、3、4（展示用）  
（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター）

◆申込方法：お申込受付開始までしばらくお待ちください（2 月上旬予定）  
お申込方法については、近日中に自然科学研究機構 web ページに掲載します。  
<http://www.nins.jp/sympo18.php>

◆動画配信：ニコニコ生放送及び USTREAM によるリアルタイム中継（予定）  
※上記 Web ページよりご視聴頂けるようになります。

◆プログラム：

10:00-10:05

機構長挨拶／佐藤勝彦（自然科学研究機構 機構長）

10:05-10:10

趣旨説明／山本正幸（基礎生物学研究所 所長）

10:10-10:50

「環境によって性が決まる！ミジンコの不思議」／井口 泰泉（基礎生物学研究所 教授）

10:50-11:20

「サンゴと褐虫藻の切ってもきれない関係」／高橋 俊一（基礎生物学研究所 准教授）

11:20-12:00

「干からびても蘇る！ネムリユスリカの極限乾燥耐性」／黄川田 隆洋（農業生物資源研究所 主任研究員）

12:00-13:30

昼休み、パネル見学

13:30-14:10

「不死の生殖細胞の不思議に迫る」／小林 悟（基礎生物学研究所 教授）

14:10-14:50

「不思議な蝶の翅をまねた物作り～発展するバイオミメティクスの世界」／広瀬 治子（帝人株式会社 構造解析センター 形態解析グループリーダー）

14:50-15:10

休憩

15:10-15:50

「花と虫の共生を追って」／山口 進（写真家・自然ジャーナリスト）

15:50-16:10

「小さな生きものたちの紡ぐ大きな物語 — 普遍と多様をつなぐ」／中村 桂子（JT 生命誌研究館 館長）

16:10-16:20

休憩

16:20-16:55

パネルディスカッション（立花 隆、中村 桂子、井口 泰泉、小林 悟、山本 正幸、他）

16:55-17:00

閉会挨拶／山本 正幸（基礎生物学研究所 所長）

---

## 2. 各研究機関のイベント情報

---

- ◆3月18日：市民公開講座 第104回分子科学フォーラム@愛知県岡崎市  
「総力と本気で 地震を克服する」  
[https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2014/12/04\\_3057.html](https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2014/12/04_3057.html)

---

## 3. 最新の研究成果・ニュース

---

### 【核融合科学研究所】

- ◆定常プラズマ研究の進展 – 高性能プラズマを長時間保持する –  
[http://www.nifs.ac.jp/lhdreport/mailinfo\\_247.html](http://www.nifs.ac.jp/lhdreport/mailinfo_247.html)

### 【基礎生物学研究所】

- ◆宿主植物は植物ホルモン「ジベレリン」により共生菌「アーバスキュラー菌根菌」の感染を負にも正にも調節する  
<http://www.nibb.ac.jp/pressroom/news/2015/01/19.html>
- ◆幼虫から生殖能力を有する成虫への変化を制御する新たな仕組みをショウジョウバエで発見  
<http://www.nibb.ac.jp/pressroom/news/2015/01/21.html>

---

#### 4. おわりに

---

第 18 回シンポジウムの主役は生物。ミジンコ、サンゴ、ネムリユスリカといった、「これぞモデル生物」とは一線を画した、特徴的な生物が登場します。彼らの独特な生態を支えるメカニズムとはいったいどのようなものなのでしょうか。そして長い進化の過程で、どのような環境がそのしくみを育んだのでしょうか。好奇心がかきたてられます。

一方で、生物の独特なしくみや形を工業的に活用しよう、という学術分野が急成長しています。「バイオミメティクス」と呼ばれています。ヤモリの脚からヒントを得た粘着テープやカワセミのくちばしに似せた新幹線の先頭車両の先頭、フクロウの風切り羽の一部の構造をとり入れたパンタグラフなど、私たちの身近にも例はたくさん。

3月22日、シンポジウム会場を出た時、生き物を見る目が変わるかもしれせん。ぜひご参加下さい！

[広報担当 : 松山桃世]

最後までご覧いただき、ありがとうございました。  
ご意見等ございましたら、m.matsuyama@nins.jp までお寄せ下さい。

---

#### 【自然科学研究機構シンポジウム・メールマガジン】

このメールマガジンでは、シンポジウムの情報に加えて、自然科学研究機構（NINS）や NINS の各研究機関（※）が開催するイベント等の情報、そして最新の研究成果などをお伝えします。

（※NINS は、国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所の 5 つの研究所から成り立ち、自然科学研究の広い分野をカバーしています。http://www.nins.jp/）

発行者：自然科学研究機構 <http://www.nins.jp/>  
発行システム：『まぐまぐ！』 <http://www.mag2.com/>  
バックナンバー：[http://www.nins.jp/public\\_information/mailmagazine.php](http://www.nins.jp/public_information/mailmagazine.php)  
配信の中止・購読・バックナンバーはこちらから：  
<http://www.mag2.com/m/0001498331.html>

---

Copyright(C)2015 NINS All rights reserved.

---